

れいじんさま たかなしし きゅうしき
《**霊神様と高梨氏救菑記**》

書院庭の奥に位置するこの祠ほこらは、高梨家の先祖を
祀まつっている。

現在でも、毎月十五日にはさかき榊を取り替え、塩・水・
米・酒・供物くもつ さと もの そな(里の物)を供える。

その後ろには、石碑『たかなしし きゅうしき高梨氏救菑記』が安置され
ている。歴代(23代 信芳、24代 順信、24代 忠學)
当主が、日頃から災害に備え、ききん飢饉などがおきた
際には、人々の命を救うために私財を投げうち、
また実際に寝る間も惜しんで奔走したことを、
当時の代官・羽倉はくら もろちか用九げき(通称 外記、号 かんだう簡堂)が
幕府に報告し、苗字帯刀を赦されたと、羽倉の
「せんならびにしよ撰並書」(文章を考え、書く)によってたてられた
けんしょうひ顕彰碑である。